

# 研究紀要

第 31 号

序文	小林昭三	1
研究論文		
国語科		
国語科の学習指導における「発表会」活性化の工夫について	永島典男	3
国語科学習指導において「聞く力」を育成するための学習の場の工夫について	寺本学	21
社会科		
中世都市杵築の性格 — 戦国期を中心にして —	山崎裕二	37
美術科		
西洋画にみられる古典技法の研究 — テンペラ及び油絵による混合技法 —	桑本京子	65
独創的な自己表現をめざす絵画構想について	桑本京子	78
保健体育科		
バスケットボールの学習指導 — 四人制審判法の試み —	藤村昇	85
英語科		
話す活動と書く活動とを連動させる指導とその評価 — 表現活動のより客観的な評価をめざして —	田辺裕弼	93
昭和63年度本校ならびに本校教官の研究活動	研 究 部	107

平成元年 3 月

島根大学教育学部附属中学校

## 序 文

昭和63年度、島大教育学部附属中学校研究紀要第31号が発刊され、皆様方のお手元にお届けできる運びになりましたことはよろこびに堪えないところであります。

さて、二十一世紀に向けた学校教育改革の方向については、臨教審の最終答申では第一次答申で掲げた八つの考え方を「個性重視の原則」「生涯学習体系への移行」「変化への対応」の三項目に集約して発表しております。古来から、国家は人なりといわれ、人づくりが教育にかかっていることは多くの人々が指摘しているところであります。教師は、これまでの教育観や授業観を一変して、二十一世紀の中学校教育に対応せねばなりません。臨教審の第一次答申が発表されて以来、急速に教師の資質向上の問題が急務な課題として、取りあげられています。この「教師の資質向上」の問題はどんな時代、どんな社会にあっても古くて、常に新しい命題であります。臨教審第一次答申では、教師には、「生徒に対する教育愛・高度な専門的知識・実践的指導技術」が不可欠であると指摘しています。また、第二次答申では、「人類愛や教育的愛情を基盤とする広く豊かな教養・教育の理念や人間の成長・発展についての深い理解や教科などの専門的知識、そして、それらの上に立った実践的指導力と生徒との心の触れ合い」を教師にのぞむものとして挙げています。専門職としての資質能力の向上について、自己啓発に努めることは当然であり、教師として例外ではあり得ません。

教育の現場には、学習指導法の一つをとってみても問題が山積しておりますが、一つひとつふみつぶして歩いているのが現状であり、誠に残念であります。このことが教師への不信の原因にもなっているものと思われれます。従って、「何故」を問い、「いかに」を考える教師が求められているのであります。即ち、知的探究心をもって、ことの探究にあたり、問題を解決する能力を是非、身につけて欲しいものであります。

本号には、6人の先生方による7篇の論文が収録されております。即ち、

- 永島典男：国語科学習指導における「発表会」活性化の工夫について
- 寺本 学：国語科学習指導において「聞く力」を育成するための学習の場の工夫について
- 山崎裕二：中世都市杵築の性格——戦国期を中心にして——

- 桑本京子：西洋画にみられる古典技法の研究—テンペラ及び油絵による混合技法—
- 桑本京子：独創的な自己表現をめざす絵画構想について
- 藤村 昇：バスケットボールの学習指導 — 四人制審判法の試み—
- 田辺裕弼：話す活動と書く活動とを連動させる指導とその評価 — 表現活動のより客観的な評価をめざして—

であります。

永島論文は国語科の学習指導の中で行われている発表会の活性化を図るためには、指導過程のどこにポイントをおいてどのような工夫をすればよいかということを実証的に示したものであります。寺本論文は、最近とみに話し言葉の教育の重要性が指摘されている中で、聞く力を伸ばすために、どのような学習の場を構成すればよいかということを追求めた実践的研究であります。山崎論文は、縁結びの神として知られている出雲大社の杵築の性格について、中世後期を中心にして考察した専門的分野の論文であります。貴重な論文として今後の研究の重要な参考文献となるであります。桑本論文は筑波大学での研修において、絵画技法であるテンペラ及び油絵による混合技法についてまとめたものであります。更にもう一つの論文は絵画活動における創造（創作）の過程を追求め、構想の一方法として課題による試作を行い、考察を試みたものであります。藤村論文は学校現場におけるバスケットボールの学習指導において、今後予想される生徒達による四人制審判の効果並びに生徒の意識について論じた実践的研究であります。田辺論文は表現活動の活性化を目指して、永年に亘り実践してこられた3 - sentence - speech 活動のほか、音声指導やカードによる指導の工夫を加えた実践的な研究であります。

ここに発表された論文が先生方の教育実践にいささかでも役に立つことがあれば幸いに思います。読者の方々の厳しいご批判と温いご指導を頂ければうれしく思います。

平成元年 2 月 19 日

島根大学教育学部附属中学校

校長 小林 昭 三

# 昭和 63 年度本校ならびに本校教官の研究活動

研 究 部

## I. 共 同 研 究

第31回中学校教育研究発表協議会

- (1) 研究主題 自ら学ぶ力を育てる学習指導 — 授業改善による自己教育力の育成 —  
 (2) 期 日 昭和63年6月1日(水)・6月2日(木)  
 (3) 講 演 「自己教育力の育成」 大阪教育大学教授 北尾・倫彦 先生  
 (4) シンポジウム 「中学生と学ぶ力」  
     司 会 有馬毅一郎 (島根大学)  
     シンポジスト 鯨岡 峻 (島根大学) 山下 政俊(島根大学)  
                   木村 進 (附属小学校) 川津 啓義  
 (5) 全体発表 研究発表(研究の基本構想) 研究部長 山崎 裕二  
 (6) 公開授業

日 時	教科領域	年・組	単 元 ま た は 題 材	授 業 者
第 一 日 時	一 校	国 語	2 - 4 「対話を豊かに」	川津 啓義
		理 科	2 - 1 物質と原子	浜田 裕三
		理 科	3 - 3 電流と磁界	西山 成信
	時	音 楽	1 - 3 リコーダー三重奏「メヌエット」(クリーゲル作曲)	藤原 正博
		英 語	1 - 1 Lesson 4 「英語で話そうナンシーと」	田辺 裕弼
		道 徳	1 - 2 選手に選ばれて(権利と義務)	西田 修
二 日 時	一 校	国 語	3 - 2 「生きる」(自分を考える)	寺本 学
		理 科	1 - 4 植物の世界	高橋 伸二
	時	美 術	2 - 2 修学旅行のためのTシャツづくり(デザイン)	桑本 京子
		英 語	2 - 4 Lesson 2 A Secret Message	河西 尚子
		道 徳	2 - 3 ダンプのおじさん(勤労の尊さ)	岩田 靖
第 一 二 日 時	一 校	社 会	1 - 3 西アジア・アフリカ	錦織 馨
		数 学	2 - 3 平面図形	関 稔
	二 校	技 術	2-4(男) 間伐材を用いた身近な木製品の設計と製作(座業式)	中島 康博
		家 庭	3-3(女) 自由献立の調理実習	久我 俊子
		保 体	3-1.2(女) 陸上競技(混成競技)	花原 良治
特 活 (学級会)	3 - 4 校内音楽会に向けて	平野 謙治		

日	時	教科領域	年・組	単元または題材	授業者
第 二 日		特 殊	養 護	コンピューターで勉強しよう	三島 修治
		特 殊	養 護	ひらがなあそび	原 宏
	二 校 時	社 会	3 - 1	住みよい松江にするために(報告書づくり)	山崎 裕二
		数 学	3 - 2	平方根	奥村 泰磨
		技 術	2 - 4(男)	間伐材を用いた身近な木製品の設計と製作(座業式)	中島 康博
		家 庭	3 - 3(女)	自由献立の調理実習	久我 俊子
		保 体	1 - 1.2(女)	体操「動きづくり」	宮本 夏子
		特 活 (学級会)	1 - 4	校内音楽会に向けて	永島 典男
特 殊	養 護	附中食堂～ごはんと味噌汁を作ろう～	糸賀真由美		

(7) 分科会(研究発表・協議)

日	教科	研究テーマ	発表者	司会者	助言者
第 一 日	国語	聞く力の育成を目指した学習指導	永島 典男	田辺 福夫 (安来二中)	田中 瑩一(島根大) 足立 悦男(島根大)
	理科	自分で追求する力を育てる学習指導	浜田 裕三	川上 幾雄 (松江教育事務所)	秋山 優(島根大) 高橋 成和(島根大) 秦 明德(島根大)
	音楽	自らの意志による発散を促す自己表現の学習	藤原 正博	石飛 隆雄 (松江教育事務所)	久納 慶一(島根大) 知念 辰朗(島根大) 田中 昭(島根大)
	美術	自己表現力を育てる授業の構成	桑本 京子	太田 良治 (松江一中)	石野 眞(島根大) 安達雄次郎(県教委)
	英語	より豊かな表現力を育てる学習指導	田辺 裕弼	嵐 元宏 (県教委)	大上 寛親(島根大) 森山 善美(島根大)
第 二 日	社会	「自ら学ぶ力」を育成する報告書づくりの指導	錦織 馨	米原 範倍 (松江教育事務所)	有馬毅一郎(島根大) 森本 直人(島根大)
	数学	効果的な「体験のくさび」を取り入れた学習指導	関 稔	岡 賑悟 (松江市教委)	福田悌次郎(島根大) 伊藤 俊彦(島根大)
	技術	自己評価をしながら主体的に進める学習の指導	中島 康博	西山 昇 (出雲市教委)	山下 晃功(島根大)
	家庭	自由献立を取り入れた調理学習	久我 俊子	中野 吟子 (県教委)	藤江 奏(島根大)
	保体	自らをコーチする選択制の学習指導	藤村 昇	安部 輝洋 (松江教育事務所)	渡辺 悦男(島根大) 久保田康毅(島根大) 平井 章(島根大)
特殊	「自ら学ぶ力」を育てる「附中食堂」の開業	加田 紀機	大野 明子 (湖陵中)	西 信高(島根大) 江角 郁男(県教委)	

## Ⅱ. 個人研究

### 1. 研究発表(口頭)

- 久我 俊子 ○「中学校技術・家庭科の新しい動向について」 日本教育大学協会全国家庭科部門昭和63年度大会(於 福井市福祉センター)
- 西山 成信 ○「地学的自然の教材化」 第37回日本理科教育学会中国支部大会(於 山口大学理学部) S. 63. 11. 20

### 2. 掲載論文

- 西田 雄行 ○「教材としてのイチョウウキゴケ」  
遺伝 43巻3月号(裳華房) H. 元. 3
- 久我 俊子 ○「中学校技術・家庭科の新しい動向について」  
日本教育大学協会全国家庭科部門大会報告書(日本教大協事務局) H. 元. 3
- 川津 啓義 ○「言語生活を基盤にした主体的な読み手を育てるために」  
月刊国語教育研究(日本国語教育学会) S. 63. 12
- 「自らの必要感に立った読解指導」  
国語教育'89(明治図書) H. 元. 3
- 田中 義浩 ○「変声期における調の選び方や音域の設定」 教育音楽小学版・中学高校版別冊「歌唱・合唱教育のための実用発声を学ぼう」(音楽之友社) S.63. 11. 20
- 山崎 裕二 ○「『学ぶ力』を育てるための評価と指導法の改善研究」 昭和62年度国立大学・学部附属学校教育方法等改善研究要録(文部省・日本教育大学協会)  
S. 63. 11. 1
- 「杵築大社の本願」  
大社町史研究紀要3号(大社町教育委員会) S. 63. 8. 1
- 奥村 泰磨 ○「活力ある学校づくり」 特活研究(明治図書) H. 元. 3
- 岩田 靖 ○「授業研究 オーストラリアの農牧業—『羊の国』は今—」  
地図・地理の研究(帝国書院) S. 63. 10

### 3. 著 書

- 西田 雄行 ○理科教育実践講座(全18巻) 飯利雄一、武村重和、奥井智久、山極隆監修  
観察と実験(第15巻)「飼育・栽培に関する実態調査」持田昌美と共著  
(小学館) S. 63. 9
- 授業実践改革講座(全7巻) 中島章夫、梶田毅一責任編集  
(第2巻「考える力と創造性の育成を目指す授業実践の改革」北尾倫彦編)  
「中学校理科の授業」(第一法規) H. 元. 3

- 川津 啓義 ○「島根の人物ものがたり」  
永島 典男 島根県国語教育研究会編（日本標準） S. 63. 5. 14  
寺本 学  
山崎 裕二 ○「社会科教育の理論と実践」  
教員養成大学・学部教官研究集会社会科教育部会編（東洋館出版社） S. 63. 4

#### 4. 作品・演奏

- 川津 啓義 ○「酔」 島根書道協会（県立博物館） S. 63. 9  
田中 義浩 ○オペラ「蝶々夫人」手紙の二重唱（シャープレス役）  
遠藤照代ソプラノリサイタル（於 プラバホール） S. 63. 8. 3  
○「マタイ受難曲」（バスソリスト）  
島根大学声専合唱団（於 プラバホール） S. 63. 11. 23